

# Ⅲ－１ 森林づくりボランティア活動促進事業

## 【森との共生推進室】

### 1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、令和2年度の参加者数は前年度を上回った。(令和2年度参加者数：12,879人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

#### (2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

#### (3) 事業内容

##### ①森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

### ア 森林ボランティア情報の発信



【センターHP】



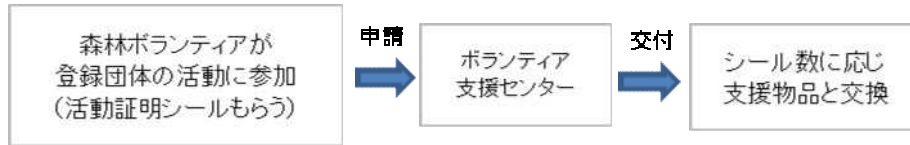
【ボランティアセンター通信】

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和2年度は66回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

## イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

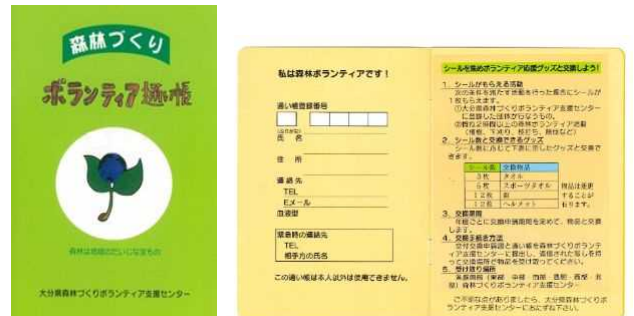
森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



森林づくり活動実績に応じて、令和2年度はタオル・鎌・鋸などの支援物 56 点を 21 名に交付した。



【支援物品】



【森林づくりボランティア通い帳】

## ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育講座（チェーンソー）」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」によって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	7人	伐木作業の基礎知識、実習等
刈払機	1日×2回	5人	刈払機の基礎知識、実習等

### 【研修の様子】



〈実習〉



〈学科講習〉

## エ 新型コロナウイルス感染症対策について

公益社団法人国土緑化推進機構の作成したガイドラインに基づき、森林ボランティア活動時の感染予防対策（参加者の連絡先を把握、体温測定等）とともに、コロナ対策を行った上で安全に活動できるよう、周知を行った。

また、森林づくりボランティア支援センター通信等で情報発信を行い、予防対策の周知をはかった。

### 【ボランティア通信の記載例】

#### 文月

気温が高くなるこれからの季節は、マスクをすることで熱中症にかかりやすい面もあります。森林内での活動（森林ボランティア、自然観察会等）でも下記に注意して、事故無く楽しく活動ができるようにしていきましょう。

- 1) 事前に体温の測定と記録
- 2) マスクの着用・消毒液の携行
- 3) 参加者同士の距離（2m以上）を確保。詳細は「国土緑化推進機構 ガイドライン」でご確認ください。

#### 熱中症予防 × コロナ予防で「新しい生活様式」を健康に!

マスク着用により、熱中症のリスクが高まります。必要に応じてマスクを外して、「熱中症予防」と「コロナ感染防止」を両立させましょう!

マスクをはずしてもいいとき

- 1) 屋外で
- 2) 人との距離が2m以上（十分な距離）離れている時

マスク着用時の熱中症予防行動のポイント

- 1) 激しい運動は避けましょう
- 2) 喉が渇いていなくても、こまめに水分補給をしましょう  
・1日あたり1.2リットルを目安に、大量に汗をかいたときは塩分も補給してください。
- 3) 気温・湿度が高いときは要注意

活動時に注意すること

- ・森林ボランティア活動で昼食をとるときは離れて座りましょう
- ・道具、食器の共有はやめましょう
- ・手洗い、うがい、消毒も忘れずに。
- ・発熱や、倦怠感があるときは森林ボランティア活動はやめましょう!



### 【令和2年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた
1) ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報発信（66回更新） ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
2) 森林ボランティア団体（新規1団体）、個人（新規21名）の登録
3) ボランティア通い帳の発行（21冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 相談対応：16件、野外におけるコロナ対策情報の発信等
5) 森林づくり活動支援（機材貸出：12回、人材斡旋：5回・21人）
6) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・利用団体：11団体      ・利用者数：327人

## ②企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和2年度までの協定締結企業は32社となっており、1社1協議会が再協定を締結した。

〈活動費用の助成〉

- ・株式会社テレビ大分

〈令和2年度 再協定〉

- ・日本フォレスト株式会社  
及び日田木質資源有効利用協議会



株式会社テレビ大分 下刈り

### ③森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

※詳細は「事業一覧表」を参照



植栽作業（国東市）



植栽現地の下刈作業（日田市）

### ④森林山村多面的機能発揮対策事業

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する（実施団体：9団体）

令和2年度市町村別活動団体数

大分市	3団体
由布市	3団体
臼杵市	1団体
杵築市	1団体
中津市	1団体

## 3 成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では15団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12,879人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

#### 【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人（人）	参加者数（人）	目標参加者数（人）	達成率
H27	89	2,612	13,083	13,000	101%
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%

#### **4 今後の課題と取り組み**

新型コロナウイルスの影響で活動を縮小・休止する団体もあったが、感染予防のガイドライン等を周知し、森林ボランティア参加者数の維持につとめた（目標の13,000人を概ね達成）。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

## 令和2年度 森林づくり提案事業 実績一覧表

(単位:円、人)

整理番号	流域名	活動団体名	活動場所 (市町村)	活動内容	交付額	活動参加者数
1	大分 東部	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	346,730	81
2		護町会	杵築市	竹林整備	500,000	74
3		荒木川流域プロジェクト実行委員会	国東市	間伐、木工	483,922	80
4	大分 中部	三角台を守る会	臼杵市	三角台の登山道周辺整備及び森林環境教育	315,574	135
5		松穂の会	大分市	森林内管理道整備、親子森のこども展覧会、椎茸コマ打ち体験会	180,000	82
6		神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備	193,000	117
7		特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	一般県民への森林環境教育	108,000	40
8	大分 南部	ビーチバレーボール団	佐伯市蒲江	松くい虫防除活動、松の植樹活動	500,000	23
9		桜で地域に潤いを創る会	佐伯市直川	植栽予定地の整備、植栽の準備、桜の植栽	500,000	135
10		佐伯広域森林組合	佐伯市	木工教室	34,000	16
11	大分 西部	200海里の森づくり実行委員会	日田市	下草刈り、植樹活動	93,791	80
12		特定非営利活動法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	下草刈り、観察路網整備、補植・樹木名票等設置活動	373,000	40
13	大分 北部	きこり組みんなあつまれ～	宇佐市、中津市	・間伐 3回	76,689	22
14		下毛の里自伐型林業研究会	中津市	・広葉樹林整備 1回	106,260	30
15		三郷小学校みどりの少年団	中津市	・植樹、間伐 1回 ・森林体験学習 2回	212,453	94
	合計				4,023,419	1,049

## Ⅲ－２ 森林環境教育・木育促進事業

### 【森との共生推進室】

#### 1 森の先生派遣事業

##### (1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

##### (2) 実施事業の概要

###### ① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

###### ② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

###### ③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	H 3 0	R 1	R 2
派遣回数	9 5 回	8 5 回	8 2 回
派遣人数	5 2 4 人	4 9 2 人	3 9 7 人
森林体験者数	4, 9 3 9 人	4, 5 6 5 人	3, 2 1 7 人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	H 3 0	R 1	R 2
研修会回数	2 回	2 回	2 回
参加者数	3 3 人	2 7 人	3 7 人

###### ④ 実施状況写真

###### ・ 森林体験学習の様子



【自然観察会】



【葉っぱを使ったワークショップ】

## ・研修会の様子



【救急救命講習】



【自然観察の観点を身につける実習】

## 2 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体 市町村

### (2) 実施事業の概要

#### ① 目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

#### ② 事業内容

##### I 樹木医の診断に基づく樹木の治療

- ・不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など

##### II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

#### ③ 実績

- ・治療 3 件（大分市：イチョウ、別府市：シダレザクラ、九重町：カヤ）
- ・標柱・標識の設置 5 箇所

### (3) 今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

### (4) 活動状況写真

シダレザクラ（別府市）の治療



着工前



整枝作業後



## アコウ（津久見市）の標柱立替



・ 標柱が腐れて倒れている



・ 立替完了

### 3 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業

#### (1) 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

#### (2) 実施事業の概要

##### ① 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

##### ② 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

##### ③ 事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

【参加者】 35名

【行程等】 令和2年8月10日～12日（2泊3日）

1日目：志戸子ガジュマル園、屋久島環境文化村センター、学習会

2日目：ヤクスギランド、安房川でカヌー体験、感想文書作成

3日目：かごしま環境未来館

#### (3) 成果

新型コロナウイルスの影響で中止となった。

#### (4) 今後の課題と取組

感染症予防対策の方法等を見直し、コロナ禍での実施に向けて検討する。また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会を実施していきたい。

#### (5) 参考 実施状況写真（令和元年度）



【屋久島環境文化村センター】



【志戸子ガジュマル園】

### Ⅲ－３ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業

【自然保護推進室】

#### 1 実施主体

大分県

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

祖母・傾・大崩エリアのユネスコエコパーク登録に伴い、登山者をはじめ、来訪者増加が想定されることから、安全性・快適性の向上など、受入れ環境の向上・改善が求められている。

また、ユネスコエコパークの特徴的なスポットへの案内がなく、経路も分かりづらいため、自動車等での円滑な移動や周遊が困難。

##### (2) 目的

ユネスコエコパークエリア内に所在する老朽化した国定公園施設等を整備し、森林レクリエーション環境の改善と、自然と共生した地域振興を図る。

また、案内看板の整備を進め、ユネスコエコパークへの誘客促進に繋げる。

##### (3) 事業内容

- ・佐伯市藤河内溪谷キャンプ場（バンガロー）の整備（8棟）
- ・特徴的な自然や文化等を楽しむスポットへ適切に誘導するための案内看板の整備（46箇所）



(バンガロー整備写真)



(案内看板整備写真)

#### 3 成果

老朽化した施設の改修などにより、安全性の確保や快適性の向上に寄与することができた。

また、案内看板を整備することにより、自動車等での円滑な移動に必要な整備ができ、誘客の促進につながった。

#### 4 今後の課題と取組

生態系の保全と、自然と調和した持続可能な地域の発展を図るため、今後も引き続き国定公園施設等について、保全・改修等を行っていく。

#### 5 実施計画等

祖母傾国定公園内の神原登山口トイレの改修（洋式化）を行う。

## Ⅲ-4 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

### 1 実施主体

九重青少年の家

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

- ・子ども達の自然体験活動・環境学習の機会が不足している。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化にともない、新たな指導者の養成が急務である。

#### (2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と、児童・生徒への学習機会の提供を行う。

県産材を使用したアスレチック施設を活用し、子ども達の体力・運動能力の向上を図るとともに、木に触れ親しむことで、森林や木への関心を高める。

#### (3) 事業内容

- ① 幼児期からの環境学習に関する学習機会の提供
- ② 森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③ 森林環境教育を拡充する施設整備

### 3 成果

ここのえ緑の子ども園・ここのえ緑の楽校 事業満足度

年度	H28	H29	H30	R1	R2
目標	80%	85%	90%	90%	90%
実績	100%	100%	100%	100%	99%

ここのえ緑の探検隊 生きるカプラス変容※

年度	H28	H29	H30	R1	R2
目標	5.0%	6.0%	7.0%	7.5%	7.5%
実績	7.2%	6.8%	11.4%	11.2%	12.2%

※独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した IKR 評定により数値化した、探検隊参加前後の、子どもたちの「生きる力」の増加率

森林の環境学習サポート隊 事業参加者

年度	H28	H29	H30	R1	R2
目標	100名	200名	700名	800名	800名
実績	139名	512名	1,092名	1,241名	348名

### 4 今後の課題と取組

- ・次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。
- ・子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者を対象とした研修の充実を図る。
- ・子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

### 5 実施状況写真



【ここのえ緑の子ども園】



【ここのえ緑の楽校】



【ここのえ緑の探検隊】



【森林の環境学習サポート隊】

## Ⅲ－５ 未来の環境を守る人づくり事業

### 【うつくし作戦推進課】

#### 1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動など社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

#### 2 実施事業の概要

##### （１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、青少年団体等で環境学習に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

##### （２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちに環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育成し、環境関連の取組の担い手となってもらう。

##### （３）事業内容

###### ①おおいたこども探検団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

###### ②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

#### 3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、新型コロナウイルス感染症拡大により前年度に比べ派遣数は減少したが、オンラインでの講義開催や人数を制限するなど新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、環境保全についての関心と理解を深めた。

##### ①おおいたこども探検団推進事業

年度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
採択団体数	1 3	1 5	1 2	8
受講者数（人）	約 2, 0 0 0	約 2, 6 0 0	約 2, 0 0 0	約 6 0 0

## ②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
派遣実績（人）	1 6 2	1 5 3	1 6 5	9 6
受講者数（人）	8, 0 9 8	8, 7 5 0	8, 6 9 6	3, 4 8 6

## 4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んで行く。

## 5 実施状況写真



① おおいたこども探検団事業  
大分県立大分東高等学校農業部  
(地域の子どもたちとの環境保全活動)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業  
(自然観察会)

## Ⅲ－６ みんなで支える森林づくり推進事業

### 【森との共生推進室】

#### 1 実施主体

大分県

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

##### (2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

##### (3) 事業内容

###### ①学びの森林フェス（第20回豊かな国の森づくり大会）の開催

みどりの少年団5団体、関係者含め80名が参加し、別府市の志高湖周辺の県行造林地において、記念植樹（サクラ）、除伐・枝打ち（マツ、広葉樹等）、伐倒作業の見学、天皇お手植え木の手入れ（シカネット交換）といった林業体験活動を実施した。

- ・開催日時：令和3年3月6日（土）
- ・開催場所：別府市志高湖周辺の県行造林地
- ・主催：大分県、別府市、（公財）森林ネットおおいた
- ・大会規模：参加者（みどりの少年団5団体その他関係者）計80名
- ・活動内容：記念植樹10本（サクラ）、除伐・枝打ち、伐倒作業見学、シカネット張り替え作業



記念植樹状況



シカネット交換作業状況

## ②新たな森林づくり推進体制整備事業

### ・「森林づくり委員会」の開催

令和2年度は第3期大分県森林環境税の最終年度であり、その成果検証を行うとともに第4期へ向けて見直しを行うため、森林づくり委員会を開催した。

また、国の森林環境譲与税との住み分けを明確にし、今後の大分県森林環境税のあり方について検討を行った。

回数	開催日	協議事項
第1回	R2.6.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度森林環境税活用事業の実績</li> <li>令和2年度森林環境税活用事業の予算概要</li> <li>第3期森林環境税の実績報告について</li> </ul>
第2回	R2.8.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3期森林環境税の実績報告書（案）について</li> <li>知事との意見交換</li> </ul>
-	R2.8.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>知事へ第3期森林環境税の実績報告書提出</li> </ul>
第3回	R2.10.29	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度森林環境税活用事業予算の編成状況</li> <li>新規事業提案について</li> <li>第4期森林環境税のあり方について</li> </ul>
第4回	R2.12.21	現地視察 ※新型コロナウイルスの影響で中止

### ・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部・大分南部・大分西部・大分北部 (5流域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「森林づくり提案事業」(公募事業)の審査、実績の検証</li> <li>森林環境税事業地の視察、意見交換等</li> </ul>	計7回

### ・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催（R2年度 1回開催）

森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、本県の50年後のあるべき森林の姿と、森林環境税を活用した災害に強い森林づくりや低コスト再造林の推進などの、次世代の大分森づくりビジョンの取組状況についての報告と検証を行った。

## 3 成果

### (1) 学びの森林フェス（第20回豊かな国の森づくり大会）

参加者数：80名

子ども達に森づくり活動を体験してもらうことで、森林の役割や、森林づくりの

重要性について理解を深めることができた。

また、令和4年に本県で開催される全国育樹祭及び全国みどりの少年団活動発表大会に向けて、みどりの少年団の団員の育成、活動の活発化を推進することができた。

## (2) 新たな森づくり推進体制整備事業

「大分県森林づくり委員会」では、大分県森林環境税実績報告書を作成し、第3期の検証と今後のあり方について知事へ報告を行った。

また、国の森林環境譲与税が経営放棄された森林を適正に管理することを主たる目的としていることをふまえ、第4期大分県森林環境税の取組について下記テーマを定め、今後5年間の大分県森林環境税の運営方針を決定することができた。



大分県森林づくり委員会



第3期森林環境税実績報告書提出

### 大テーマ 大分の豊かな森林と木のある暮らしを次世代へ

#### I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり

森林の持つ多面的機能の発揮により、豪雨や台風をはじめとした自然災害等から、県民の命と暮らしを守る森林づくりを推進する。

##### (1) 災害に強い森林づくり

森林の公益的機能の発揮に向けた河川沿いや急傾斜地の森林整備による、針広混交林や広葉樹林へ誘導する森林づくりを推進する。

##### (2) シカ被害対策の推進

森林資源の確保と林業被害の軽減を図るため、シカ被害対策を推進する。

##### (3) 森・川・海をつなぐ環境の整備

森から海への流域全体の保全につながる森林づくりを推進する。

#### II 森林資源の循環利用による地域活性化

利用期を迎え充実した森林資源の利活用と、資源循環に向けた取り組みを推進し、森林・林業の成長による地域活性化を推進する。

##### (1) 健全な人工林資源の循環と低コスト化の推進

森林資源の循環利用を図るため、伐採跡地における確実な再生林を推進する。併せて、新技術の導入による林業低コスト化に向けた取組等を推進する。

##### (2) 森林資源の利活用推進

竹材の利活用推進や、公共施設等への県産材の利用を推進する。



### Ⅲ 森林を守り親しみ、次世代につなぐ取組

県民が森林にふれ親しむ機会を創出するとともに、次の世代を担う子供達に森林の大切さを伝えることで、全ての県民でおおいたの森林づくりを支える意識の醸成を図る。

#### (1) 里山林の保全活動の推進

県民の目にふれる機会の多い里山景観の保全等を推進する。

#### (2) 森林ボランティア活動の推進

県民一人一人が、身近な森林づくり活動に参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するため、森林ボランティアの技術向上や活動情報の発信を推進する。

#### (3) 森林林業教育・森林ESDの推進

全国育樹祭の開催を契機として、次世代の森林づくりを担う子供たちに、森林の多面的機能や、森林整備の重要性、木材利用の意義について理解を深め、将来にわたり森林・林業に関心を持ってもらえるよう、学校や地域における体系的・継続的な森林林業教育を推進する。

#### (4) 森林づくりへの理解を広げる取組

大分県森林環境税を活用した森林づくり活動や、その必要性について、県民の理解と協力が得られるよう、メディア等による広報活動を行う。

また企業のSDGsによる取組支援や、森林サービス産業の創出、県民参加型の森林づくりイベントの開催を推進する。

「森林づくり流域協議会」では、各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、また、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、大分県の森林づくりにかかる課題・取組状況・成果を包括的に検証し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

## 4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、引き続き森づくり大会の開催等による県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林環境教育のさらなる推進、SDGs など新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

## Ⅲ－７ おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室、林産振興室】

### 1 おおいたの森林づくり広報推進事業

#### (1) 実施主体 大分県

#### (2) 実施事業の概要

##### ①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

##### ②事業内容

##### マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告3回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）
- ・ 新時代おおいたに取組紹介記事を掲載
- ・ ほっとはーと OITA で、環境税を活用した「森の先生派遣事業」を紹介
- ・ ラジオによる広報1回（県民意見の募集、環境税継続についての広報）
- ・ ばんそうこうの作成

##### その他の広報活動

- ・ 大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布（各2500部）
- ・ 森林環境教育関連ガイドマップの配布（500部）
- ・ 大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。（もりりん貸出し回数：7回）
- ・ 「森づくり大会」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。



【ガイドマップ】

【チラシ・パンフレット】

【ばんそうこう】



#### (3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

#### **(4) 今後の課題と取組**

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い（認知度は47%）。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。

## Ⅲ－８ おおいたうつくし作戦推進事業

【うつくし作戦推進課】

### 1 実施主体

大分県・・・おおいたうつくし推進隊に委託  
(委託先:NPO法人、学校、ボランティア団体 など)

### 2 実施事業の概要

#### (1) 現状と課題

平成28年4月から本格スタートした「おおいたうつくし作戦」を県民に広く普及させる取組を行っており、作戦のけん引役であるおおいたうつくし推進隊数や活動への参加者数は増加してきているが、まだ十分とは言えない。

#### (2) 目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来へ継承するため、地域活性化型の「おおいたうつくし作戦」を展開し、うつくしの「し(森林)」の分野を始め、様々な環境分野での県民意識の更なる醸成と持続可能な活動基盤づくりを推進する。

#### (3) 事業内容

##### ①保健所・保健部ごとに地域連絡会の開催

うつくし推進隊等の環境保全団体と行政等で地域の環境課題等を協議するとともに、連携を促進する。

##### ②おおいたうつくし作戦 まちづくり推進事業の実施

地域連絡会で集約した地域課題の解決に向けて、推進隊等と協働した事業を実施する。

##### ③おおいたうつくし作戦 なかまづくり推進事業の実施

提案公募型の補助事業を実施し、新規設立の推進隊の基盤づくりを推進する。

##### ④おおいたうつくし感謝祭の開催

大分の豊かな自然環境に感謝し、環境保全の大切さを考えるきっかけとするための環境イベント「うつくし感謝祭」を開催する。

### 3 成果

	指標	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2
①地域連絡会	参加団体	7 2	9 4	5 0	1 1
②まちづくり推進事業	委託団体	6	1 2	8	5
③なかまづくり推進事業	委託団体	7	7	5	5
④うつくし感謝祭	参加者数(人)	1, 0 0 0	2, 3 0 0	7, 7 0 0	10, 4 0 0

### 4 今後の課題と取組

地域の環境課題の解決を図り、県民総参加で環境視点での地域活性化に取り組むため、各地域におけるうつくし推進隊の増加、活動の基盤づくりなどを引き続き推進する。

### 5 実施状況写真



うつくし作戦なかまづくり推進事業  
(森林整備活動)



おおいたうつくし感謝祭  
(竹ストロー製作ワークショップ)

## Ⅲ-9 全国育樹祭開催準備事業

### (みどりの少年団活性化推進事業)

#### 【全国育樹祭推進室】

#### 1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

#### 2 実施事業の概要

##### (1) 現状と課題

- ・みどりの少年団の資金不足により活動が停滞している。
- ・専属の指導者が不足する等、みどりの少年団を継続して活動できる体制が整っていない。

##### (2) 目的

令和4年度本県で開催される全国みどりの少年団活動発表大会参加に向けた活動の強化並びに新規団設立による県内少年団の活性化を図り、育樹祭後の少年団活動の推進に繋げる。

##### (3) 事業内容

- ・新規団設立に必要な団旗等の提供
- ・みどりの少年団が行う地域活動等に支援
- ・各少年団活動に専門的知識を持った外部講師を指導者として招いた場合の報償費の支援
- ・活動発表研修会の開催

#### 3 成果

##### ・みどりの少年団の設立数

年度	事業前	R 1	R 2
計画	-	29	31
実績	23	27	31

新規団の設立については、目標としていた31団体を達成することができた。

- ・地域活動等の支援  
植樹活動などの少年団活動に対する支援を行い等、活動強化を図った。
- ・活動発表研修会  
各少年団の活動内容を収録したDVDを作成・配布したことで、各少年団の活動の共有を図り、県全体の少年団活動の相互研鑽による活動の活性化につながった。

#### 4 今後の課題と取組

次代の森林・林業を支え担う人材の核として、みどりの少年団が行う活動をさらに活性化させる必要があり、令和3年度の大分県みどりの少年団活動発表会及び令和4年度の全国みどりの少年団活動発表会に向け、引き続き活動支援を実施する。

## 5 実施状況写真



植樹活動



木とのふれあい